

食文化創造都市にいがた推進計画 平成 30 年度進行状況報告書

令和元年 7 月 食と花の推進課

1. 本計画について

「食文化創造都市にいがた推進計画」は、食で選ばれるまち・にいがたを目指すため、本市の強みである食や食文化の素晴らしさに目を向けると共に、これらを産業の活性化や交流の拡大などにつなげることを目的に平成 29 年 3 月に策定された計画。

本報告書は、本計画の達成状況を委員へ報告、点検・評価頂くことを目的に作成された。進行状況の報告は 2 回目。

2. 本計画の進行状況に関する参考指標について

本計画は各事業毎に達成目標を設定し、達成状況を調査しているが、計画全体の社会への影響等を確認するため参考指標を設定し、毎年度数値を調査することとする。

なお、参考指標は、関連計画の成果指標から選定した。

3. 各施策別・平成 30 年度評価別の事業数について

計画策定時（平成 28 年 3 月）の事業数は 86 事業、平成 30 年度に実施した食文化関連事業は 69 事業だった。各施策別の事業数は表 1 の通り。

平成 30 年度評価別では、A:目標を上回った事業が 19 事業、B:目標通り実施できた事業が 37 事業、C:目標を達成できなかった事業が 13 事業だった。評価別の事業数は表 2 の通り。

表1 事業数(各施策別)

施策No. (将来像-施策)	施策名	事業数 (計画策定時)	事業数 (H29実績)	事業数 (H30実績)
1-1	食への理解の促進	15	13	15
1-2	食を生かした健康づくり	8	5	4
1-3	食文化の次世代への継承	13	9	7
	将来像1 小計	36	27	26
2-4	地域の魅力の向上	11	11	11
2-5	ガストロノミーツーリズムの構築	5	5	5
2-6	他都市への発信と都市間連携	5	4	5
2-7	国際交流の促進	6	6	5
	将来像2 小計	27	26	26
3-8	新たな挑戦への支援	16	14	12
3-9	さまざまな分野への食の活用	7	7	5
	将来像3 小計	23	21	17
	事業数計	86	74	69

※計画策定時の事業数は平成28年度末の統合・休止事業を含む。

表2 事業数(平成30年度評価別)

評価	事業数
A:目標を上回った	19
B:目標通り実施できた	37
C:目標を達成できなかった	13
事業数計	69

※施策1～9の合計値。

4. 各施策の進行状況

将来像1 食を通じて「人」がつながり活気あふれる元気なまち

施策1	食への理解の促進
主な取組	若手料理人の育成支援、新潟発わくわく教育ファーム推進事業など
進行状況	本施策では、地産地消や食育教育など、学校・市民団体・小学生等を対象にした事業を継続して進めている。「若手料理人の育成支援」では、市内の35歳以下の料理人を対象にしたコンテストを初開催した。「新潟発わくわく教育ファーム推進事業」では、市内全小学校において「アグリ・スタディ・プログラム」を実施しており、児童らの農業や食への理解の向上を促した。
目標の達成度	平成30年度の事業数15事業に対し、「A:目標を上回った」事業は3事業、「B:目標通り実施できた」事業は10事業、「C:目標を達成できなかった」事業は2事業だった。

施策2	食を生かした健康づくり
主な取組	新潟市健幸づくり応援食品認定制度、ちょいしおプロジェクトなど
進行状況	新潟市は全国と比較すると、脳血管疾患および胃がんによる死亡率が高い [※] 。原因の一つとされる食塩の過剰摂取について、保健所が主体となって「食環境整備事業」「ちょいしおプロジェクト」等、様々な減塩の取組を行った。 農業・食品産業では「農産物高付加価値化推進事業」を通じ、機能性に関する科学的な報告がある成分を含む食品や、健康づくりに配慮されている食品に対し、市独自の認定を行った。 <small>※新潟市健康・栄養調査 結果の概要(平成29年3月、保健所健康増進課)より引用</small>
目標の達成度	平成30年度の事業数4事業に対し、「A:目標を上回った」事業は1事業、「B:目標通り実施できた」事業は1事業、「C:目標を達成できなかった」事業は2事業だった。

施策3	食文化の次世代への継承
主な取組	地場産学校給食推進事業、レシピ集の活用など
進行状況	郷土料理や行事食、伝統野菜の栽培など、農村地域で培われ

	<p>た食文化は農村地域の高齢化・人口減少により失われつつある。これを次世代へ伝えるため、食と花の推進課では郷土料理のレシピ集を様々な事業で活用するなど、食文化の収集・編纂・発信を行った。また、「地場産学校給食推進事業」では、4月から10月の間、学校給食において地場産環境保全型コシヒカリと統一米（学校給食会）の価格差の助成を行った。</p>
目標の達成度	<p>平成30年度の事業数7事業に対し、「A:目標を上回った」事業は1事業、「B:目標通り実施できた」事業は6事業だった。</p>

将来像2 食を通じて「地域」がつながり新たな交流を生み出すまち

施策4	地域の魅力の向上
主な取組	農家レストランの設置、農業体験観光ツアーなど
進行状況	<p>広大な農地を持つ本市は、各区によって名産品が異なることから、各区が主体となって地域の名産品のPRを行っている。中央区地域課では「醗酵食産業PR事業」として、区内で古くから発展してきた酒、みそ、しょうゆ等を料理教室や体験教室を通じて広くPRした。秋葉区産業振興課では「満願寺稲架木を活用した観光交流事業」として、田植え・稲刈り・はさかけイベントを行った。</p>
目標の達成度	<p>平成30年度の事業数11事業に対し、「A:目標を上回った」事業は3事業、「B:目標通り実施できた」事業は7事業、「C:目標を達成できなかった」事業は1事業だった。</p>

施策5	ガストロノミーツーリズムの構築
主な取組	レストランバスなどを活用したコンテンツ開発など
進行状況	<p>「レストランバスなどを活用したコンテンツ開発」では、自然や歴史的景観などの地域資源と、農業体験、酒蔵見学などのさまざまな体験メニューを組み合わせ、本市の食文化を一体的に体験できる新しい観光コンテンツを開発した。</p> <p>「魅力発信・誘客推進事業」では、本市への誘客につなげるため、ガストロノミーツーリズムをはじめとした「食」「酒」「農」「みなとまち文化」等の着地型観光コンテンツの強化を図った。</p>

目標の達成度	平成 30 年度の事業数 5 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 2 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 0 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 3 事業だった。
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------

施策 6	他都市への発信と都市間連携
主な取組	食と花の銘産品事業、特産品・土産品の振興など
進行状況	<p>特産品・土産品の振興として、新潟市産品等の販路拡大を図るとともに、本市への誘客につなげるため、集客力のある全国各地のデパートにて「新潟の観光と物産展」を開催した。</p> <p>また、「農産物販路拡大支援事業」では、生産者や生産団体と実需者とのマッチングを行ったほか、卸や小売業者等と連携し、大都市等でのプロモーションを行った。</p>
目標の達成度	平成 30 年度の事業数 5 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 2 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 2 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 1 事業だった。

施策 7	国際交流の促進
主な取組	食の国際見本市「フードメッセ in にいがた」など
進行状況	<p>都市ブランドの構築を図ると共に、本市の拠点性を高めていくために、本州日本海側最大の食の国際見本市「フードメッセ in にいがた」を開催し、食関連事業者に対して商談の場を提供した。</p> <p>また、「新潟の食輸出商談会」では、(公財)にいがた産業創造機構と共催し、海外から食品バイヤー 17 社を招へい、商談会を実施した。</p>
目標の達成度	平成 30 年度の事業数 5 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 3 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 2 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 0 事業だった。

将来像 3 食を通じて「産業」がつながり新たな魅力を創造するまち

施策 8	新たな挑戦への支援
主な取組	食のマーケットイン支援事業、6 次産業化サポート事業など
進行状況	<p>農業活性化研究センターの「6 次産業化サポート事業」では、6 次産業化・農商工連携に取り組む農業者などを対象に加工機械・施設などの導入および販売拡大への支援を行った。</p> <p>また、北区産業振興課では「『しるきーも』」特産化事業、江</p>

	南区産業振興課では「梅の里産地活性化事業」など、産地毎に特産品のブランディングに取り組んだ。
目標の達成度	平成 30 年度の事業数 12 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 3 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 6 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 3 事業だった。

施策 9	さまざまな分野への食の活用
主な取組	12 次産業化推進事業、農・福連携事業など
進行状況	<p>ニューフードバレー特区課では、本市が有する豊富で多様な田園資源を子育て・教育・交流などの分野に活かす 12 次産業化の推進を図るため、12 次産業化の普及・啓発に向けた取組を実施した。</p> <p>また、スポーツ振興課が実施する「新潟シティマラソン」「新潟シティライド」では、地域の食材を使用したエイド食を提供し、参加者へ本市の食の魅力を発信した。</p>
目標の達成度	平成 30 年度の事業数 5 事業に対し、「A:目標を上回った」事業は 1 事業、「B:目標通り実施できた」事業は 3 事業、「C:目標を達成できなかった」事業は 1 事業だった。

5. 平成 30 年度の進行状況の評価および所見

平成 30 年度事業のうち「A:目標を上回った事業」および「B:目標通り実施できた事業」の合計数の割合は、本計画全体の事業数に対し 81%であったことから、平成 30 年度事業はおおむね計画通りに進行したことが分かった。ただし、食文化関連事業の事業数が廃止・休止等により減少傾向にあることから、各施策の内容をブラッシュアップし、事業効果を高めていく必要がある。

また、施策毎の事業数を見ると「食への理解の促進」「地域の魅力の向上」「新たな挑戦への支援」の施策数が多く、市民の食・農への理解の促進や、地域の魅力を涵養し、事業として発展させることを目的にした様々な事業が行われていることが伺えた。

他方、「食を生かした健康づくり」「ガストロノミーツーリズムの構築」「他都市への発信と都市間連携」「国際交流の促進」「さまざまな分野への食の活用」の事業数は平成 29 年度同様、比較的少なかった。人口減少社会における関係人口創出のため、本市が持つ食文化の強みを理解し、積極的に市外・国外へ発信する姿勢が求められる。

6. 参考：シビックプライドに関する数値

「食文化創造都市にいがた推進計画」策定前の平成 28 年度、および策定から 2 年経過した平成 30 年度の「市政世論調査」のうち、「あなたは次の 24 の項目に対して、ど

の程度誇りや愛着を感じていますか」の設問の数値を抽出した。全 24 項目の中で、誇りや愛着が「ある」「ある程度ある」の割合が 50%以上の項目を中心に列挙したものが表 3 である。

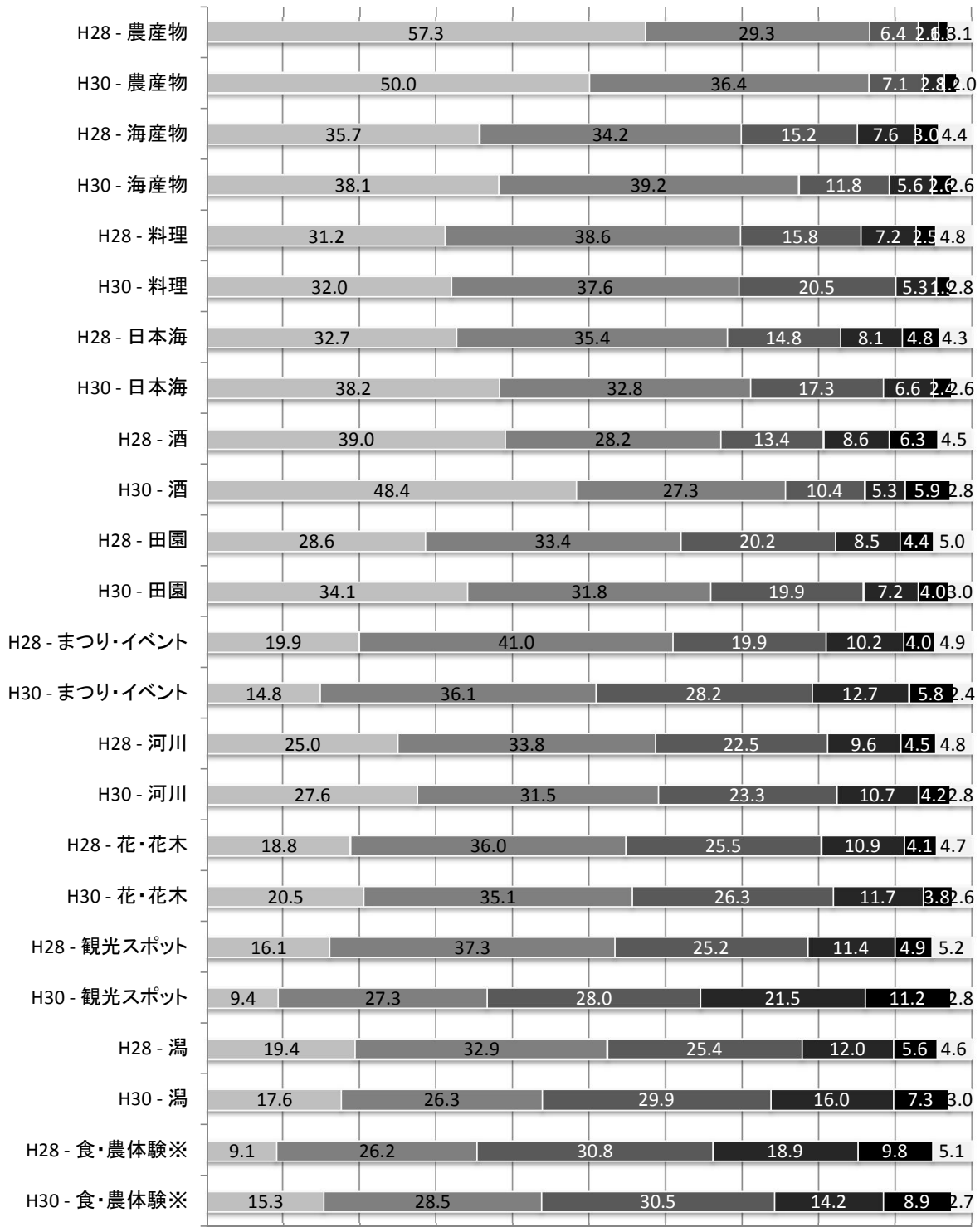
母数が異なるため平成 28 年度と 30 年度の比較はできないが、「農産物」「海産物」「酒」といった食に関連する項目が両年共に高い数値を示すことが分かった。

誇りや愛着を感じる項目24個の中で、「ある」「ある程度ある」の項目が50%を超えた項目(H28, H30)

H28: n=2059 H30: n=1655

■ある ■ある程度ある ■どちらともいえない ■あまりない ■ない ■不明・無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



出典：「平成28年度 市政世論調査」（新潟市）、「平成30年度 市政世論調査」（新潟市）
 ※食・農体験は「ある」「ある程度ある」の合計が50%に満たない（参考掲載）

「市政世論調査」の結果が直接本市の食文化関連事業の成果に結びつくとは言いがたいが、市内各地で行われる食文化関連事業に市民が触れ、参加することで、本市の食文化に誇りや愛着を持ち生き生きと暮らすことは、本計画が目指す将来像の1つ「食を通じて『人』がつながり活気あふれる元気なまち」に繋がる姿であると言える。

上述の将来像のみならず、残る2つの将来像「食を通じて『地域』がつながり新たな交流を生み出すまち」「食を通じて『産業』がつながり新たな魅力を創造するまち」を推進するため、食文化を活用した国内外との交流の創出、魅力の創造に努め、本市の活気に繋げてゆくことが求められる。